

## 手厚く支援すべき大学英語学習者とは

鈴木右文  
九州大学大学院言語文化研究院

<https://doi.org/10.15017/1786395>

---

出版情報：英語英文学論叢. 63, pp.113-122, 2013-03-18. 九州大学英語英文学研究会  
バージョン：  
権利関係：

# 手厚く支援すべき大学英語学習者とは

鈴木右文

## 1 はじめに

筆者は担当する英語クラスで英語学習と留学志向や進学志向等に関するアンケートを実施した。本稿の第1の目的は、その結果全体を示して関係者の参考に供することであるが、第2の目的は、アンケート結果の分析を行い、かねてからの筆者の主張である「限られた英語教育資源を学生全員に均等に傾注するのは非効率的」という点に関連して、どのような学生を対象に資源をより多く配分するのがよいのかという問いに解答を試みることである。

## 2 アンケートの実施クラス

2012年度前期の九州大学全学教育における言語文化基礎科目の1年生向けの英語Iという読解を中心としたクラスのうち、筆者は金曜4限に理学部物理学科を担当した<sup>1</sup>。7月27日の最終授業で教場試験を実施する際に、試験時間とは別に時間を取ってアンケートを実施した。スムーズな実施のために、答案とアンケート用紙は同じ紙に印刷したので、実質的に記名式のアンケートという形になった。

この物理学科のクラスを含め、九州大学では1年生全員を対象に、6月頃TOEFL-ITPを実施しており、本稿ではそのデータとアンケート結果を使用させていただくが、個人が特定できないように扱うこととし、承諾書の提出を全員から受けた<sup>2</sup>。

---

1 この授業では専門への橋渡しを考慮して、スティーヴン・ホーキングの宇宙物理学理論を扱った英語講読用教科書 (Hawking and Mlodinow (2008) 『ホーキングが語る「宇宙のすべて」』、千葉康樹編註、松柏社) を使用した。理系学部なので比較的大学院への進学志向は高く、専門書を読み解くのに英語が必須だという意識はかなりあると思われる。

### 3 アンケートの項目

実施したアンケートの質問項目のうち、本稿に関係するものは以下のとおりである。

- 【1】英語は授業科目として好きである。  
よくあてはまる、どちらかというにあてはまる  
どちらかというにあてはまらない、全くあてはまらない
- 【2】英語は正課の授業以外でも勉強している。  
よくあてはまる、どちらかというにあてはまる  
どちらかというにあてはまらない、全くあてはまらない
- 【3】これまで英語圏での生活体験がある。  
よくあてはまる、どちらかというにあてはまる  
どちらかというにあてはまらない、全くあてはまらない
- 【4】これまで英語圏での留学・研修体験がある。  
よくあてはまる、どちらかというにあてはまる  
どちらかというにあてはまらない、全くあてはまらない
- 【5】高校まで英語という教科はすべての教科の中で得意であった。  
よくあてはまる、どちらかというにあてはまる  
どちらかというにあてはまらない、全くあてはまらない
- 【6】これまで1年次のTOEFL-ITP以外に国際英語検定試験（TOEFL、TOEIC、国連英検、IELTS、ケンブリッジ英検等のこと、日本の英検は除外する）をよく受験してきた。  
よくあてはまる、どちらかというにあてはまる  
どちらかというにあてはまらない、全くあてはまらない
- 【7】今後在学中（進学希望者は大学院も含む）に短期留学・英語圏での研修を考えている。  
よくあてはまる、どちらかというにあてはまる  
どちらかというにあてはまらない、全くあてはまらない

---

2 この承諾書の文面は以下のとおりである。2012年7月27日：承諾書：九州大学大学院言語文化研究院准教授鈴木右文殿：私は、貴殿が担当した2012年度前期九州大学全学教育言語文化基礎科目英語Ⅰ（金曜4限理学部物理学科1年生対象）の授業の成績、大学で受験したTOEFL-ITPのスコア、下記のアンケートへの回答内容を、読者が私を特定できない形で論文に利用することを承諾します。

- 【8】 今後在学中（進学希望者は大学院も含む）に交換留学を含め、半年以上の留学を考えている。  
よくあてはまる、どちらかというにあてはまる  
どちらかというにあてはまらない、全くあてはまらない
- 【9】 今後の学歴についての現在の考えは以下のとおりである。  
学部卒業後進学しない  
修士課程修了までいく  
博士課程修了までいく
- 【修士課程までという方】
- ・ 修士課程の大学についての現在の希望は以下のとおりである。  
日本で  
海外で（学習言語は英語）  
海外で（学習言語は英語以外）
- 【博士課程までという方】
- ・ 修士課程の大学についての現在の希望は以下のとおりである。  
日本で  
海外で（学習言語は英語）  
海外で（学習言語は英語以外）
  - ・ 博士課程の大学についての現在の希望は以下のとおりである。  
日本で  
海外で（学習言語は英語）  
海外で（学習言語は英語以外）
- 【10】 今後の専門の勉学についての現在の考えは以下のとおりである。  
在学中ひととおりするが卒業後は不明  
研究者以外が希望だが生涯勉強していく  
研究者希望で生涯勉強していく

#### 4 アンケートの結果

アンケート対象者58名による回答を、TOEFL-ITP のスコア順に並べると次のようになる。「よくあてはまる」を3、「どちらかというにあてはまる」を2、「どちらかというにあてはまらない」を1、「全くあてはまらない」を0とした。また問9については、博士課程まで進学するつもりの場合には2、修士課程まで進学するつもりの場合には1、大学院に進学

しないつもりの場合には0として、進学に対する意欲を示した。日本の大学院とするか海外の大学院とするかという質問項目が付されているが、海外とした者が3名しかおらず、そこから何事が一般化を引き出すには無理があると考え、今回は分析の対象としていない。問10については、「研究者希望で生涯勉強していく」を2、「研究者以外が希望だが生涯勉強していく」を1、「在学中ひととおりするが卒業後は不明」を0として、学術に対する意欲を示した。

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	TOEFL-ITP
1	1	1	0	0	0	0	1	1	0	未受験
3	2	1	0	2	0	2	1	1	1	未受験
1	0	0	0	1	0	1	1	1	0	未受験
3	3	1	1	2	0	3	3	1	0	543
2	2	0	0	2	0	0	0	2	0	520
3	3	0	0	3	0	2	0	1	1	513
3	2	2	3	3	2	2	1	2	0	500
2	3	0	0	1	2	0	0	1	1	500
2	0	0	0	2	0	0	0	1	0	497
3	1	0	0	2	0	3	2	1	2	497
1	1	1	0	1	0	1	1	2	0	497
2	0	2	0	0	0	0	0	1	0	497
2	1	0	0	2	0	2	1	1	1	497
1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	497
0	1	0	0	1	1	2	2	2	2	493
3	2	0	0	2	0	0	0	1	0	490
2	2	0	0	2	0	3	2	2	2	487
2	1	0	0	2	0	0	0	1	0	483
2	1	0	0	2	0	2	1	2	0	483
2	1	0	0	2	0	0	0	1	0	483
1	1	0	0	1	0	1	1	1	0	483
2	0	0	0	1	0	0	0	2	2	480
2	1	0	0	3	0	0	0	0	0	480
2	1	0	0	1	1	0	0	1	0	480
1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	477
1	1	1	3	1	0	0	0	1	1	477
1	0	0	0	2	0	0	0	1	1	473
2	1	0	0	1	0	0	0	2	2	473
2	2	0	0	1	0	0	0	2	2	473
1	1	0	2	1	0	1	1	1	2	470
0	0	1	3	0	0	2	0	0	0	467
1	1	0	0	2	0	1	0	1	2	467
1	0	0	0	1	0	0	0	2	2	467
1	3	2	1	1	0	3	3	2	2	467

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	TOEFL-ITP
1	0	0	0	2	1	0	0	0	0	460
1	0	0	0	2	0	0	0	1	0	460
2	2	1	2	2	0	2	2	2	2	460
0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	457
2	0	0	0	1	0	0	0	1	0	450
2	1	0	0	2	1	1	1	2	2	450
0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	450
1	0	0	0	0	0	2	1	1	0	450
0	1	0	0	0	1	0	0	2	0	443
1	0	0	0	2	0	1	1	1	0	443
1	1	0	0	1	0	0	0	1	2	440
1	0	0	0	0	0	1	1	2	2	440
1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	427
1	2	0	0	0	0	3	3	1	1	427
1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	423
1	2	0	0	0	0	2	0	1	2	423
2	2	0	0	0	0	1	1	1	2	420
0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	417
1	0	3	3	0	0	1	1	1	2	417
1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	407
1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	403
0	1	0	0	0	0	0	0	2	2	400
1	1	0	0	1	0	1	1	1	1	380
0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	313

## 5 アンケート項目間の相関性

アンケートの質問項目間、TOEFL-ITPのスコアとの間にどの程度の関連性があるかを見るため、相関係数を調べてみると、以下のとおりとなる（四捨五入により、小数点以下第2桁までを表示）。

	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	スコア
問1	0.51	0.10	0.01	0.64	0.13	0.21	0.17	0.16	0.02	0.58
	問2	0.13	0.11	0.37	0.25	0.49	0.44	0.31	0.29	0.39
		問3	0.71	-0.03	0.11	0.28	0.31	0.12	0.05	0.12
			問4	0.04	0.14	0.26	0.20	0.00	0.10	0.08
				問5	0.19	0.19	0.11	0.17	-0.05	0.56
					問6	-0.01	0.00	0.16	-0.06	0.18
						問7	0.83	0.19	0.30	0.15
							問8	0.31	0.28	0.13
								問9	0.41	0.20
									問10	-0.13

## 6 アンケート結果の分析

相関係数については、一般的な見方に従い、0.6～1で高い関係性があると考え、0.3～0.6で中程度の関係性があるとみなし、0～0.3では関係性が薄いものと考えておく。

### 6.1 関係性の高い問の組合せ

0.6以上の相関係数をもって、高い関係性があるとみなされる組合せが3通りある。

1つ目は問1「英語は授業科目として好きである」と問5「高校まで英語という教科はすべての教科の中で得意であった」の組合せ、2つ目は問3「これまで英語圏での生活体験がある」と問4「これまで英語圏での留学・研修体験がある」の組合せ、3つ目は問7「今後在学中（進学希望者は大学院も含む）に短期留学・英語圏での研修を考えている」と問8「今後在学中（進学希望者は大学院も含む）に交換留学を含め、半年以上の留学を考えている」の組合せである。

これら3つの組合せのうち、問3と問4の組合せ（相関係数0.71）と、問7と問8の組合せ（相関係数0.83）については、問の内容が似通っているため、関連性が高いのは極めて当然であり、特に取り上げて検討を要する事項ではないと思われる。問3と問4の組合せについては、留学したことがあれば当然現地で生活しているであろうし、問7と問8については、短期留学と半年以上の留学がどちらも将来の選択肢として候補に入っている者が多いであろう。事実、筆者が企画・運営している「ケンブリッジ大学英語・学術研修<sup>3</sup>」への応募者（ほとんどが本稿でのアンケートの回答者と同じ1年生）の面接において、留学志向を持っている者の中で、1年生の段階で希望する滞在期間について短期なのか半年以上なのかを明確に絞り込んでいる者は少数派である<sup>4</sup>。残る問1と問5の組合せについては次節で検討する。

---

3 概要については鈴木右文(2013)『ケンブリッジ大学英語・学術研修への招待—名門校で学ぶ、暮らす、国際人になる』(九州大学出版会)を参照のこと。

4 アンケートの実施が夏休み前の7月下旬、面接の実施が夏休み後の11月上旬であることを考えると、将来についてゆっくり考える機会である夏休みの後でも絞り込みができていなければ、まして夏休み前には明確な態度を持ちえないのは当然であろう。

## 6.2 全学習者に均等に力を傾注することへの疑問

前節で関係性の高い2つの組合せを見たが、残る問1と問5の組合せ(相関係数0.64)からは、高校までに英語が得意であったことが現在英語を科目として好むかどうかに関係していることがわかる。大学における英語学習に高い動機を持って励んでもらうには、英語の授業を好きであることが役に立つと思われるが、それはかなりの程度大学入学前までの成績が関係しているということが示されているわけで、大学英語教育において英語が苦手な科目としても好まない学生も含めて全員に均等に力を注ぐことへの疑問を感じざるを得ない。高校で英語が得意でなかった層の学生は区別して、留学を志向して頑張っている学生がそれに必要な英語力を身につける支援をすることに、限られた人的・財政的資源を傾注すべきではないかというのが筆者の主張である。英語が苦手な英語を好まない学生に力を注いでも成果を得るには膨大な精力が必要であるものと予想される。また、英語が好きで得意な学生であっても、留学を受け入れてもらえる英語力を身につけるには相当の勉強が必要であるという現実があり、TOEFLやTOEICの受験者のスコア分布に関する国際比較に見られる日本人大学生の英語力の水準は何とかなければならない低いレベルにある<sup>5</sup>。

## 6.3 支援を集中すべき学習者

他の問の組合せにおける関係性に目を移すと、まず、問2の「英語は正課の授業以外でも勉強している」が多くの他の項目と関係性があることに注目したい。1つ目は問2と問1「英語は授業科目として好きである」との組合せで、数値は0.51である。2つ目は問2と問5「高校まで英語という教科はすべての教科の中で得意であった」の組合せで、数値は0.37である。3つ目は問2と問7「今後在学中(進学希望者は大学院も含む)に短期留学・英語圏での研修を考えている」の組合せで、数値は0.49である。4つ目は問2と問8「今後在学中(進学希望者は大学院も含む)に交換留学を含め、半年以上の留学を考えている」の組合せで、数値は0.44である。5つ目は問2と問9「今後の学歴についての現在の

---

5 筆者の企画・運営する「ケンブリッジ大学英語・学術研修」もこうした問題意識に基づいた英語力の留学レベルへの引き上げの取り組みの一環である。



考えは以下のとおりである」の組合せで、数値は0.31である。6つ目は問2とTOEFL-ITPのスコアの組合せで、数値は0.39である。

これらの観察から、大学の正課の授業以外に英語を勉強している学生は、英語を好み留学を志している可能性が比較的高く、TOEFL-ITPのスコアも、エクストラの英語訓練をしていない学生より若干は良い傾向にあるとすることができるであろう。従って、大学生全般の中でターゲットを絞って支援するとすれば、留学を志し、かつ自らの発意で正課の授業以外に英語の勉強をしている層が対象としてふさわしいのではないかとと思われる。

しかし、アンケート結果をさらに分析すると、ただ留学を志し英語の勉強をエクストラにしていれば支援にふさわしいというものでもなさそうに思われる。問7「今後在学中（進学希望者は大学院も含む）に短期留学・英語圏での研修を考えている」と問8「今後在学中（進学希望者は大学院も含む）に交換留学を含め、半年以上の留学を考えている」について、どの項目と関係性が高いかを見てみると、問2「英語は正課の授業以外でも勉強している」とは確かに関係性がかなりあると言えるが、問1「英語は授業科目として好きである」（相関係数は問7と0.21、問8と0.27）や問5「高校まで英語という教科はすべての教科の中で得意であった」（相関係数は問7と0.19、問8と0.11）との関係性は薄い。英語が好きで大学入学前まで得意であったわけでもなく、留学を志し、正課の他に英語に取り組んでいる者も多いわけである。恐らく、学術に身を捧げようとしてよりレベルの高い海外へというわけではなく、単純な海外体験志向という部分も大きいのではないかと想像される。現に、アンケート結果では、留学の志向を扱う問7と問8に対し、進学志向の問9と学術志向の問10との関係性があまり強いとは言えない（相関係数は問7について問9とが0.19、問10とが0.30、問8について問9とが0.31、問10とが0.28）。そうになると、留学を志して何かエクストラの勉強をしているとしても、単に海外体験に対する憧れや漠然とした英語志向からである可能性もあり、手厚い支援を行う対象者を選ぶ場合には、やはり英語が好きで入学前の成績が良好であったという条件も追加する方がより適切と言えそうである。

これまでの考察をまとめると、限られた人的財政的資源を手厚く配分する対象者としては、英語が好きで入学前の英語の成績が良好な者のう

ち、留学を志して正課以外に英語の勉強を自主的に行っている者というのが妥当な結論だと思われる。余裕があれば留学を志す者全員にケアを行うこともできるであろうが、正課の英語受講者全員に平等に精力を注ぐのは賢い選択とは言えないであろう。

#### 6.4 TOEFL-ITP のスコアとの関係

最後に TOEFL-ITP のスコアとの関係を見ておくと、比較的強い関係性が見られるのは、問1「英語は授業科目として好きである」(相関係数0.58)と問5「高校まで英語という教科はすべての教科の中で得意であった」(相関係数0.56)である。やはり力のある大学生というのは英語が好きで、入学前の段階でもよい成績を取めたものということになるようである。また、スコアと留学志向とは必ずしも連動せず(スコアと短期留学の問7との相関係数は0.15、半年以上の留学の問8との相関係数は0.13)、留学志向があれば英語力があるとは言えないことが改めてわかる。このことから、留学志向だけで支援を厚くするのは効果的でないことがわかる。

### 7 結論

本稿では、英語学習に関する項目と留学志向や進学志向等に関する学生アンケートの結果を示し、限られた人的財政的資源を英語受講者全体に均等に使うのではなく、留学志向を持って正課以外に英語の勉強を自ら行い、英語が好きで入学前から成績の良好な者に多く割くのが効率的であると主張した。